

キャラクター名
紅 千尋

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー キュマイラ	ワークス	ヒーロー候補生A	カヴァー	夜来学園生徒
オプション		年齢	16	性別	男
覚醒	生誕	衝動	吸血	初期侵食率	34 %
出自	兄弟	経験	秘密	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	4	1	0		1	6	行動値	9
感覚	2		0			2	(非装備時)	9
精神	1		0		1	2	戦闘移動	14
社会	1		0		1	2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2		調達	1	
運転:			芸術:パイオリン	1		知識:パイオリン製作	1		情報:ヒーロー	3	
運転:			芸術:彫刻	1		知識:			情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
ダークネスムーンブレイク	白兵	11r+11	5	28		2+3+4+5+6。C値8。
インペラムーンブレイク (100↑)	白兵	23r+11	5	31		2+3+4+5+6+7。C値7。
インペラムーンブレイク (160↑)	白兵	28r+11	5	34		2+3+4+5+6+7。C値7。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アームドスカーフ		2			装甲値+2。行動値+3。攻撃力+4。

所持品	
ヒーローズクロス	
バウンス:サイエンス (肉体、精神、社会)	
コネ: UGN幹部	
コネ: ヒーローマニア	
コネ: 情報屋	
制服	

合計装甲: 2 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
対抗種	P	N		
兄: 昇大我	P 憧憬	N 嫉妬		
光月れい	P 慕情	N 無関心		
克上爆夜	P 友情	N 劣等感		
ルカ・ミュルーズ	P かわいい	N 疎外感		
宮原小春	P かわいい	N 不安		
狩谷誘	P 君は止める	N 憐憫		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
赫き剣	5	3	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	種別・技能: 白兵、命中: 0、攻撃力: (LV×2) 点以下の(消費したHP)+8、ガード0、射程: 至近の素手データを作成する。							
破壊の血	5	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果:	【赫き剣】“赫き剣”の攻撃力+(LV×3)、ガード値+5。HP2消費。							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	戦闘移動を行う。1シーンLV回。							
コンセントレイト:ブラム=ストーカー	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果:	C値-(LV) ※最大値7							
鮮血の一撃	4	2	メジャー	武器	—	対決	—	
効果:	<技能: 白兵>ダイス+(LV+1)個。HP2消費。							
渇きの主	5	4	メジャー	至近	単体	対決	—	
効果:	<技能: 白兵>装甲無視。HPを(LV×4)点回復。							
始祖の血統	3	4	メジャー	—	—	—	100↑	
効果:	<技能: シンドローム>ダイス+(LV×2)。HP3消費。							
獣の直感	1	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果:	...敵襲か! (<知覚>判定あり。)							
血の彫像	1	—	メジャー	至近	単体	自動	—	
効果:	やっぱりバイオリンはいいなあ... (<芸術: 彫刻>判定あり。)							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

数百年前から続く家系、紅家の一人息子。現状、紅家の後継者最有力候補である。オーヴァードに覚醒してはいるが、その力は弱い。その代わりに吸血衝動が紅家全体から判断しても群を抜いて高い。牙持ち。護衛術として武道を嗜んでおり、学園では剣道部に所属している。大我お兄ちゃん大好き。

紅家は分家ではあるが、昇家と同等の権力を持ち、「エリートを育成する」昇家の目的とは、また違った目的がある。その目的は主にレネグイドを応用した物品の開発。その一端が、千尋が着用する特製の衣服。これにより、自身の「レネグイドを打ち滅ぼすレネグイド」の力を最小限にすることができる。但しこの衣服は戦闘には全く使用できないため、専ら彼の私服として使われている。

昇家と紅家がかたれた原因としては、数百年前のある日、昇家の12代目当主の愛娘が一人の吸血鬼と駆け落ちしたところから始まる。紅家はそこから繁栄してできた家であり、千尋はその吸血鬼の子孫であり、その吸血本能も持ち合わせている。そしてこれは当然といえそうなのだが、千尋はその吸血鬼の特性が吸血衝動が強く出ているのだ。その衝動は定期的に来て、頻度は一ヶ月に一回ほど。さらにそれは千尋自身が抑えこむことが困難なほど強く、それを沈静化させるには千尋が傍にいて最も安心する人間...兄である昇大我の血を経口摂取することが必要不可欠だ。家族や親族の血液も摂取自体はできる。ならば必要不可欠といえどもその対象を一人に限定する必要はないのだが、ただ千尋は大我の血の味が一番好きなのだという理由がある。因みに輸血パックではそれほど効能がないようで、前に大我が多忙で血を直接渡すことができます。パックに封入された状態のものを摂取したことがあるのだが、それでは不十分だったようで衝動を抑えられずに暴走していた。しかしオーヴァードとしての力は弱いので捕縛にはそれほどの苦勞は要しなかった。このできごと以後、大我は必ず千尋のところに赴き逆もまた然り血液を提供したりされている。吸血されている最中に嗜まれている部分に痛みはなく、いくばくかの快感を味わったのち、深い眠りへと誘われる。千尋はそうして眠りに落ちた人が目を覚ますまで片時も離れずに傍にいます。千尋はそのような優しさや母性のようなものも持ち合わせている。その反面、兄である大我にしか見せない甘えん坊な一面もある。

「あー、たいにいでー! あそんであそんでー!」